

令和 4 年度  
北村山広域行政事務組合教育委員会  
事務事業点検・評価報告書  
(令和 3 年度事業分)

北村山広域行政事務組合教育委員会



## 目 次

1	北村山広域行政事務組合教育委員会事務事業の点検・評価について	2
	(1) 制度の概要及び目的	
	(2) 点検・評価の対象事業	
	(3) 点検・評価の方法	
2	教育委員会の活動状況	2
	(1) 教育委員会の開催	
	(2) 北村山教育会基金の運用状況	
	(3) 北村山教育賞等の表彰	
	(4) 北村山教育会基金助成金の交付	
3	運営委員会の開催状況並びに委員の意見等（学識経験者の知見の活用）	4
	(1) 運営委員会の開催	
	(2) 運営委員の意見	
4	北村山視聴覚教育センター 運営方針・重点施策 及び主な事務事業	6
5	点検・評価対象事業一覧	9
	令和3年度北村山広域行政事務組合教育委員会 事務事業点検・評価書	11

## 1 北村山広域行政事務組合教育委員会事務事業の点検・評価について

### (1) 制度の概要及び目的

平成19年に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部改正（平成20年4月1日施行）により、教育委員会は権限に関する事務の管理及び執行状況について自ら点検・評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに公表しなければなりません。

北村山広域行政事務組合教育委員会ではこの法律の主旨に則し、効果的な教育行政の推進に資するため、年度毎に事務事業を点検・評価し報告書を作成します。

### (2) 点検・評価の対象事業

本報告書の点検・評価の対象事業は、令和3年度に実施した北村山視聴覚教育センター運営方針・重点施策に基づいた主要な事業を対象としています。

### (3) 点検・評価の方法

点検・評価の対象とした事業は、それぞれの事業ごとに「事務事業点検・評価書」を作成し「必要性」「効率性」「有効性」等の観点から総合評価したうえで、今後の方向性として、「継続・拡大」、「見直・改善」、及び「縮小・廃止」に区分して明確化しました。

## 2 教育委員会の活動状況

### (1) 教育委員会の開催

令和3年度は、3回の教育委員会会議を開催しました。

ア 令和3年10月26日 令和3年第2回教育委員会会議

議案 北村山教育賞等の表彰候補者について

議案 教育委員会教育長の辞職について

イ 令和3年11月20日 令和3年第3回教育委員会会議

議案 教育委員会教育長職務代理者の指名について

ウ 令和4年 2月 9日 令和4年第1回教育委員会会議

議案 令和4年度北村山広域行政事務組合教育に関する予算要求について

### (2) 北村山教育会基金の運用状況

基金の令和3年度末現在高は、1,914万5,776円です。

(単位：円)

区 分		前年度末 現在高	決算年度中増減高		決算年度末 現在高
			増	減	
北村山教育会基金	現金	20,218,233	404	1,072,861	19,145,776

(3) 北村山教育賞等の表彰

令和3年度は、北村山教育賞4名、北村山教育奨励賞4名と2団体を表彰しました。

- ・北村山教育賞            落合 信輝（尾花沢市）  
                                 落合 大翔（尾花沢市）  
                                 大場 明咲（尾花沢市）  
                                 鈴木 こはく（東根市）
- ・北村山教育奨励賞      木内 拓哉（大石田町）  
                                 安達 丈留（東根市）  
                                 内山 こころ（尾花沢市）  
                                 遠藤 佳人（大石田町）  
                                 大石田町立大石田中学校 吹奏楽部  
                                 東根市立第一中学校 吹奏楽部

(4) 北村山教育会基金助成金の交付

令和3年度は、3団体に北村山教育会基金助成金を交付しました。

- ・北村山地区指導主事連絡協議会
- ・北村山地区小・中学校長会協議会
- ・北村山図書館協議会

### 3 運営委員会の開催状況並びに委員の意見等（学識経験者の知見の活用）

#### (1) 運営委員会の開催

令和3年度は、2回の運営委員会を開催しました。

##### ア 令和3年5月24日 第1回運営委員会

(ア) 令和2年度センター事業報告

(イ) 令和3年度センター運営、事業について

##### イ 令和4年1月31日 第2回運営委員会

(ア) 令和3年度センター運営、事業経過について

(イ) 令和4年度センター運営、事業（案）について

#### (2) 委員の意見

##### ア 研究と研修活動の充実

高橋哲也副運営委員長（北村山地区中学校長会長 東根市立第一中学校長）

今年度はオンラインを活用し、ハイブリッド型の研修会を実施するなど、工夫して事業展開されていたと思う。オンラインは、遠くにいても事業に参加できるなどの利点があり、新型コロナウイルス感染症が収束後も、オンラインなどで広く発信できる。参集の利点も当然あるが、オンラインを併用することで事業展開に広がりが出てくるのではないかと。

森山仁委員（学識経験者 尾花沢市教育委員会こども教育課教育相談専門員）

本年度の尾花沢市教育委員社会教育委員合同研修会で、永瀬所長、星川指導主事に研修を行っていただいた。GIGA スクール構想によって一人一台の端末が一気に整備されたが、これをどのように活用し、子供たちの情報活用能力を高めていくか、未来を生きる子供たちの大きな力になるこの能力をどのようにつけていくかが大きな課題だということを改めて感じた。そのためにも、まずは教職員が力をつける必要があるが、市内教職員を対象にアンケートを実施したところ、個人差が非常に大きかった。北村山地区の ICT 教育を推進する中核として、今後とも各学校へのご指導、ご支援をお願いしたい。

長瀬広幸委員（学識経験者 東根市教育委員会管理課教育支援専門員）

視聴覚教育委嘱研究事業について、私も過去に委嘱研究員をさせていただいた。平成を越えて令和の時代まで事業が続いているということは、視聴覚教育に関する人材育成が地道になされてきている証である。これからも、最優先の事業として継続してほしい。

工藤幸吉運営委員長（北村山地区小学校長会長 村山市立楯岡小学校長）

本校でも本年度委嘱研究員がいるが、学習者用端末を使って授業でどう進めていくかを北村山視聴覚教育センターの指導主事や他の委嘱研究員から情報をもらい、授業力の向上につながった。ぜひ今後も継続してもらいたい。

高橋哲也副運営委員長（北村山地区中学校長会長 東根市立第一中学校長）

校務の情報化に関する提案があったが、中学校は部活動において顧問同士のやり取りや、大会事務局への様々な提出物がある。今は、それらのやり取りを学校の一台のパソコンを使ってメールでやり取りを行っており、振り分け作業に大変な状況だ。これを、北村山統一ドメインのもと北村山が一体となって Microsoft Teams を活用することによって、やり取りが上手くいくと感じる。学校の情報化の推進のために、ぜひ進めていただきたい。

#### イ 映像教材の制作、保存活動の充実

柏倉泰樹委員（学識経験者 大石田町立図書館長）

令和3年度北村山地区自作視聴覚教材コンクールでは大石田町の「大石田かるた」が特選に選ばれた。読み札の裏には、その札に書かれたものに関係する説明資料が付いており、子供たちだけではなく、一般にも参考になる教材だと思う。本作品に限らず、コンクールでの入賞作品を広報していただき、応募数の増加に繋げてほしい。

#### ウ 一般公開の充実

奥田孝吉委員（マスコミ関係者代表 山形新聞村山市支社長）

土曜日の一般公開の告知記事を毎週出させていただいているが、大変効果があるという話をお聞きすると私どもも大変ありがたい。北村山視聴覚教育センターには非常に貴重なプラネタリウムがあるので、多くの人に見てもらいたいという気持ちで記事を書いている。一般地域のニュースの面でも紹介していきたい。

※運営委員は、北村山広域行政事務組合立視聴覚教育センター条例施行規則第6条に則り、北村山広域市町村圏内社会教育団体関係者、北村山広域市町村圏内小中学校教職員、教育関係機関の職員及び学識経験者より委嘱又は任命しています。

## 4 北村山視聴覚教育センター 運営方針・重点施策 及び主な事務事業

### 令和3年度 運営方針

北村山広域市町村圏における新しい未来を創る子供たちの育成を目指し、超スマート社会（Society 5.0）における視聴覚教育（ICT教育）を促進・支援し、時代の変化に即した教育方法と指導内容の改善充実に努めるとともに、教育の情報化の進展を図る。

#### 1 研究と研修活動

学校教育・社会教育等に関する教育メディア活用の研修を計画的に開催するとともに、適宜相談に応じて指導助言を行う。

また、各種事業を通して視聴覚教育に関する調査研究を行う。

#### 2 学習情報の提供

学校教育・社会教育等に必要新しい教育メディアの収集や、地域性を生かした教材の制作を行い、利用者に提供する。

#### 3 施設利用の学習

施設利用学習については、利用者それぞれの教育目標の達成のために効果的に行われるように努める。

また、学校教育・社会教育関係者等が自主的に研修する場として施設を提供する。

#### 4 連絡提携と広報活動

視聴覚教育センターの機能を周知し利活用していただくため、また事業について参加をしていただくために、行政機関、学校教育関係機関、社会教育関係団体、地域団体等と連絡提携を図るとともに、SNS、マスメディア等を活用して積極的に広報活動を行う。



## 令和3年度 重点事業

### 1 研究と研修活動に関する事業

#### (1) 視聴覚教育委嘱研究事業

ア 視聴覚教育の中核となる教員を育成し、視聴覚教育の質の向上を目指すため、委嘱研究員に対する支援を一層充実させる。(教材研究等の相談業務、研修の補助など)

#### (2) ICT 教育推進事業

- ア 外部講師による講演会を実施し、教育メディアの活用に関する理解を深める。  
(講師：東京学芸大学 准教授 高橋純 氏、NPO 法人企業教育研究会 関谷紳吾 氏)
- イ 施設単位講習会で、時代に即した研修会(プログラミング教育、教育メディアの活用等)を充実させる。
- ウ 中学校教職員を対象としたプログラミング講座の開催  
(講師：NPO 法人みんなのコード 千石一朗 氏、宮城教育大学 教授 安藤明神 氏)

#### (3) プログラミング教室を中核とした移動学習

ア 新学習指導要領の完全実施に伴い導入された「小学校プログラミング教育」に対応したプログラミング教室を充実させる。(年間 60 クラス)

#### (4) ICT 活用及びプログラミング教育に関する実践事例集(第3集)の作成

ア 環境整備の進展に応じた教育メディア活用の事例や、プログラミング教育の事例を集約し、実践事例集として作成する。

### 2 映像教材の制作、保存活動の充実

#### (1) 自作視聴覚教材コンクール事業

ア 北村山自作視聴覚教材コンクールを開催し、学校教育、社会教育分野の自作教材の制作を奨励し、制作技術の向上を図る。

#### (2) 映像教材の制作および制作支援

- ア 視聴覚教材コンクールに向け外部講師による講演会を実施し、作品のさらなる質の向上を図る。(講師：文教大学 名誉教授 平沢 茂 氏)
- イ 地域素材を扱った自作視聴覚教材の制作を計画的に実施し、子供たちの学習等に役立てるとともに、全国及び山形県自作視聴覚教材コンクールに出品する。

#### (3) 自作視聴覚教材のアーカイブ化の推進

ア 自作教材を中心にアーカイブ化を推進し、公式 YouTube チャンネルで公開し広く映像資料を提供する。

#### (4) 16 ミリフィルム保存活動

ア 16 ミリフィルムの保存活動に努め、フィルム映画の上映や映写室の紹介などフィルム映画に焦点を当てた事業を展開する。

### 3 一般公開の充実

#### (1) 天文講演会

ア 本県出身者による天文講演会を実施し、地域住民の天文への興味関心を高める。

(講師：JAXA はやぶさ2プロジェクトチーム 武井 悠人 氏)

#### (2) 他団体との連携

ア センター利用関係団体や、管内高等学校等と連携し、一般公開事業を充実させる。

#### (3) 幅広い方に利用いただけるプラネタリウム

ア リニューアルされたプラネタリウム室の椅子を活用し、幅広い地域・年代の方に楽しんでもらえるプラネタリウム（土曜日の一般公開、音楽との共演、熟睡プラネタリウム等）を実施する。

## 5 点検・評価対象事業一覧

各重点施策のうち、○印を付した事業（以下に記載）について、点検評価を実施した。

### 重点事業1 研究と研修活動の充実

- |                                    |
|------------------------------------|
| (1) 視聴覚教育委嘱研究事業                    |
| (2) ICT教育推進事業                      |
| (3) プログラミング教室を中核とした移動学習            |
| (4) ICT活用およびプログラミング教育実践事例集（第3集）の作成 |

○視聴覚教育委嘱研究事業	1 1
○移動学習	1 2
○ICT教育推進事業	1 3
○施設単位研修会	1 4
○職員の研修	1 5

### 重点事業2 映像教材の制作、保存活動の充実

- |                       |
|-----------------------|
| (1) 自作視聴覚教材コンクール事業    |
| (2) 映像教材の制作および制作支援    |
| (3) 自作視聴覚教材のアーカイブ化の推進 |
| (4) 16ミリフィルムの活用と保存    |

○映像教材制作事業（自作視聴覚教材制作）	1 6
○映像教材の保存・アーカイブ化	1 7
○16ミリフィルムの活用と保存	1 8

### 重点事業3 一般公開の充実

- |                           |
|---------------------------|
| (1) 天文講演会                 |
| (2) 他団体との連携               |
| (3) 幅広い層を対象としたイベントプラネタリウム |

○天文関係事業	1 9
○一般公開事業	2 0
○機器材・教材の購入及び貸出	2 1
○利用を促進するための広報活動	2 2

### 総務全般

○視聴覚教育センター維持管理事業	2 3
○北村山教育会基金事業	2 4

\* 各事業の評価基準

評価項目	評価の視点	評価結果	点数
必要性	広域行政として行うべきか。 地域のニーズを反映しているか。	必要性高い	3
		一応必要性ある	2
		必要性低い	1
効率性	投入された資源量に見合った効果が得られるか。	効率的である	3
		一応効率的ある	2
		効率的でない	1
有効性	目的に対して事業が有効か。 事業実施により期待される効果が得られたか。	効果がある	3
		一応効果がある	2
		効果がない	1
総合評価	上記（必要性+効率性+有効性）の合計点数により評価。	継続・拡大（9～8点）	A
		見直・改善（7～5点）	B
		縮小・廃止（4～3点）	C

令和3年度 北村山広域行政事務組合教育委員会 事務事業点検・評価書

基本方針	1 研究と研修活動の充実	事業名	視聴覚教育研究委嘱事業	所管課等・係名	北村山視聴覚教育センター	作成日	R4.5.31
------	--------------	-----	-------------	---------	--------------	-----	---------

1 事業内容	事業実施主体	北村山視聴覚教育センター	事業箇所	事業実施場所及び北村山視聴覚教育センター	事業年度	開始年度			終了年度		
	対象	地区内幼保施設職員、小・中・高等学校の教職員	内容	<b>研究員</b> 1年目 東根市立神町中学校 教諭 深瀬 真紗美 2年目 村山市立楯岡小学校 教諭 齋藤 愛美 尾花沢市立常盤小学校 教諭 織江 真由美 大石田町立大石田中学校 教諭 村田 亮  <b>公開授業研究会</b> 11/2 尾花沢市立常盤小学校 教諭 織江 真由美(ハイブリッド開催) 11/15 大石田町立大石田中学校 教諭 村田 亮(ハイブリッド開催) 12/6 村山市立楯岡小学校 教諭 齋藤 愛美  <b>1年次および2年次発表会(ハイブリッド開催)</b> 実施日:2/9 参加人数:管内小中学校教職員35人  <b>ICT活用事例集(第3集)へ研究のまとめの報告(2月末)</b>	事業費	160千円					
	目的	研究員(各市町1名ずつ及び希望者)を委嘱し、教科目標を達成するためのICTを用いた効果的な学習指導法の開発や、プログラミング教育の実践研究を推進する。				歳入(補助金等)	国	県	その他		
					0千円		0千円	0千円			
目的	研究員(各市町1名ずつ及び希望者)を委嘱し、教科目標を達成するためのICTを用いた効果的な学習指導法の開発や、プログラミング教育の実践研究を推進する。	歳入(一般財源)			160千円						

2 事務事業評価 (令和二年度事業)	評価項目	評価結果	理由・問題点など	前年度からの改善点	委嘱研究員は、各市町教育委員会推薦のみならず、希望者の募集も行った。公開授業研究会では、コロナ禍でも参加しやすいようオンラインを併用し参集とのハイブリッドで実施した。	
	必要性	必要性高い	③			GIGAスクール構想により学習者用端末が整備されたことを受けて、学校における効果的なICTの活用に関する事例の提供が急務となっている。委嘱研究員を中心にICT活用に関する先進的な事例を、管内の学校に提供していく必要がある。
		一応必要性ある	2			
		必要性低い	1			
	効率性	効率的である	③	各市町にとって委嘱研究員の研究報告は大変貴重であり、研究員の所属する学校はもとより同市町内でICT活用に関わる情報交換が行われるきっかけとなるなど効果的な事業である。	次年度への課題	研究員の枠を広げ、各小中学校から希望者を募ったが、自ら希望する人がいなかった。学習者用端末が一人一台整備され、理想的な環境下で研究を進めることができたが、ICTを活用した学習の評価について課題が残った。
		どちらかといえば効率的	2			
		効率的でない	1			
有効性	効果がある	③	委嘱研究員を中心に授業でのICT活用の意識が高まっている。特に、授業をもとにして活用の在り方について検討する公開授業研究会は大変有効である。	今後の取組方針	一人一台環境下において、教科目標の達成のためのICTの効果的な活用と、その評価について研究を深めていく。学習者用デジタル教科書の実証事業2年目となるので、委嘱研究員には普段からの活用を促し、その可能性について探っていく。研究員の募集時期や募集方法について検討するとともに、委嘱研究の意義について周知し、立候補者を増やしていく。	
	一応効果がある	2				
	効果がない	1				
総合評価	継続・拡大(9~8点)	Ⓐ	研究員を委嘱した授業研究は、今後も継続していく。研究員には外部研修会へも参加可能な形に、内容を拡大していく。			
上記(必要性+効率性+有効性)の合計点数により評価。	見直・改善(7~5点)	Ⓑ				
	縮小・廃止(4~3点)	Ⓒ				

令和3年度 北村山広域行政事務組合教育委員会 事務事業点検・評価書

基本方針	1 研究と研修活動の充実	事業名	移動学習	所管課等・係名	北村山視聴覚教育センター	作成日	R4. 5. 31
------	--------------	-----	------	---------	--------------	-----	-----------

1 事業内容	事業実施主体	北村山視聴覚教育センター	事業箇所	事業実施場所及び北村山視聴覚教育センター	事業年度	開始年度			終了年度		
	対象	地区内幼保施設職員、小・中・高等学校の児童生徒		移動学習 ・天文教室 ・映画教室 ・情報モラル教室 ・プログラミング教室  令和3年度実績 合計163回	事業費	1893千円					
	目的	地区内幼保施設、小・中学校、社会教育関係団体を対象として、天文学習や映画教室、情報モラル教室、プログラミング教室を行い、児童の学習をサポートする。			歳入(補助金等)	国	県	その他			
						0千円	0千円	0千円			
				歳入(一般財源)	1839千円						

2 事務事業評価 (令和二年度事業)	評価項目	評価結果	理由・問題点など	昨年度からの改善点	プログラミング教室に関して、低学年から実施できるように学習内容を工夫した。小学校高学年では、MESHセンサーを用いた学習を中心にし、各学校での授業実践に繋がるような学習内容とした。 また、アンケートを実施し、実施内容の改善に務めた。	
	必要性	必要性高い	③			プラネタリウムや視聴覚室を持つ地区内唯一の施設として、今後も移動学習を実施していく必要がある。同時にICT教育に関して、視聴覚教育センターとして移動学習の中で実施していく必要がある。
		一応必要性ある	2			
		必要性低い	1			
	効率性	効率的である	③	児童生徒の天文に関する理解を促すには、プラネタリウムの活用が効果的である。また、情報モラル教室やプログラミング教室に関して、専門性の高い職員が実施することでより効果が期待できる。	次年度への課題	プログラミング教室は、移動学習のメニューの一つとして着実に浸透している。各校でのプログラミング学習にスムーズに繋げる初期指導の場として利用してもらえるよう実施内容をさらに工夫する必要がある。
		どちらかといえば効率的	2			
		効率的でない	1			
	有効性	効果がある	③	実際に児童生徒を対象として各教室を実施することで、参加した児童生徒はもとより、引率の教職員にとっても大きな学びとなり大変有効である。	今後の取組方針	プログラミング教室に関して、低学年から実施できるように内容を工夫する。その後、プログラミングの初期指導は各校で実施し、高度な内容についてセンターを利用する形へ移行できるよう、各学校に促していく。
		一応効果がある	2			
		効果がない	1			
総合評価	継続・拡大(9～8点)	Ⓐ	情報モラル教室やプログラミング教室に関しては、延べ1,500人を超える児童生徒に実施した。プログラミング教育は低中学年はプログラミング教育の初期指導を行い、高学年ではMESHセンサーを利用した学習を行っていく。			
上記(必要性+効率性+有効性)の合計点数により評価。	見直・改善(7～5点)	Ⓑ				
	縮小・廃止(4～3点)	Ⓒ				

令和3年度 北村山広域行政事務組合教育委員会 事務事業点検・評価書

基本方針	1 研究と研修活動の充実	事業名	ICT教育推進事業	所管課等・係名	北村山視聴覚教育センター	作成日	R4.5.31
------	--------------	-----	-----------	---------	--------------	-----	---------

1 事業内容	事業実施主体	北村山視聴覚教育センター	事業箇所	事業実施場所及び北村山視聴覚教育センター	事業年度	開始年度			終了年度
	対象	地区内幼保施設職員、小・中・高等学校の教職員、及び児童生徒	内容	<p>小中学校情報教育研修会(オンライン開催) 実施日:5/7(51名) 講師:東京学芸大学教育学部 准教授 高橋純 氏</p> <p>視聴覚教育講演会(オンライン開催) 視聴覚・情報教育に関して、外部講師(先進校)による講演会を実施する。 実施日:8/3(33名) 講師:NPO法人企業教育研究会 副事務局長 関谷紳吾 氏</p> <p>プログラミング指導教員研修会(オンライン開催) プログラミング教育に関して、外部講師による研修会を実施する。 実施日:6/28(22名) 講師:NPO法人みんなのコード 千石 一朗 氏 宮城教育大学 安藤 明神 氏</p> <p>ICT基礎講座(幼児施設職員対象)</p>	事業費	20千円			
	目的	視聴覚・情報教育に関して、外部講師による講演会を実施し、管内のICT活用の推進に寄与する。			歳入(補助金等)	国	県	その他	0千円 0千円 0千円
			歳入(一般財源)	50千円					

13

2 事務事業評価(令和二年度事業)	評価項目	評価結果	理由・問題点など	前年度からの改善点	日本教育工学協会や全日本視聴覚教育連盟の協力を得ながら、学校現場の要望に合った講師を選定し、GIGAスクール構想の実現に伴う一人一台端末の活用の実際について学んでもらえるようにした。
	必要性	必要性高い ③ 一応必要性ある 2 必要性低い 1	視聴覚教育に関する研修会については、当センターに期待されているところが大きいと捉え、現場のニーズを捉えた研修会等を一層充実させていく必要がある。		
	効率性	効率的である ③ どちらかといえば効率的 2 効率的でない 1	GIGAスクール構想の実現に合わせてセンターとして様々な研修の機会を提供することで、管内の視聴覚教育の全体的な底上げを効果的に行うことができる。	次年度への課題	ICTに関する研修会は、校内の情報教育担当者だけが繰り返し参加する傾向にあり、研修会での学びが学校全体で共有されているとは言いがたい。
	有効性	効果がある 3 一応効果がある ② 効果がない 1	GIGAスクール構想の実現により整備された学習者用端末の効果的な活用について学ぶ場として、有識者を招いての講演は有効である。	今後の取組方針	令和4年度村山教育事務所指導課学校教育指導の4つの重点の1つとして「ICT活用能力」が挙げられている。センターで行う視聴覚教育に関する研修会、校内の全体研修等で活用できるよう各校に対し早目の案内を行う。特に、情報モラルに関する講演会については、生徒指導担当者等への出席も呼びかける。
	総合評価	継続・拡大(9~8点) A 見直・改善(7~5点) B 縮小・廃止(4~3点) C	GIGAスクール構想による学習者用端末が整備されることを見通し、外部講師による先進的な事例を聞くことで将来の学校のイメージを共有し、北村山管内全体の底上げを図ることができた。		
		投入された資源量に見合った効果が得られたか。			
	目的に対して事業が有効か。事業実施により期待される効果が得られたか。				
	上記(必要性+効率性+有効性)の合計点数により評価。				

令和3年度 北村山広域行政事務組合教育委員会 事務事業点検・評価書

基本方針	1 研究と講習活動の充実	事業名	施設単位研修会	所管課等・係名	北村山視聴覚教育センター	作成日	R4.5.31
------	--------------	-----	---------	---------	--------------	-----	---------

1 事業内容	事業実施主体	北村山視聴覚教育センター	事業箇所	事業実施場所及び北村山視聴覚教育センター	事業年度	開始年度			終了年度			
	対象	地区内幼保施設、小・中・高等学校の教職員、児童生徒、及び保護者	内容	主に教職員を対象とした研修 ・ICT活用に関する研修 ・小学校プログラミング教育に関する研修 ・情報モラルに関する研修  主に児童生徒、および保護者を対象とした研修 ・情報モラルに関する研修 ・ICTの活用に関する研修 ・星空観望会	事業費	0千円			歳入(補助金等)	国	県	その他
	目的	職員が学校や施設に出向き、ICT活用に関する研修、プログラミング、情報モラル、星空観望等の講習会を行う。				0千円				0千円		
					歳入(一般財源)	0千円						

14 2 事務事業評価(令和二年度事業)	評価項目	評価結果	理由・問題点など	前年度からの改善点	各市町教育委員会と連携し、ICT教育推進計画とすり合わせを行いながら講習会の時期や内容を検討し実施した。		
	必要性 広域行政が行なうべきか。地域のニーズを反映しているか。	点数	学校の担当職員だけでは実施が難しい講習会を、センター職員の専門性を生かし実施することは必要である。				
		必要性高い		③			
		一応必要性ある		2			
	効率性 投入された資源量に見合った効果が得られたか。	必要性低い	1				
		効率性	③	各校の代表者のみを集めた講習会ではなく、センター職員が各校に直接出向き講習を行うことで、効率的に学校全体での共通理解をはかることができる。			
どちらかといえば効率的					2		
効率的でない	1						
有効性 目的に対して事業が有効か。事業実施により期待される効果が得られたか。	効果がある	③	施設単位で訪れた学校からの評価が高く、近隣の学校でも開催してほしいという要望に繋がっている。現場のニーズに沿った講習会が実施できていると考えられる。	次年度への課題	情報モラルに関する研修会(児童生徒、保護者対象)の依頼が増加してきているが、生徒指導的な内容の依頼が多く、校内の年間計画等で計画的に位置づいている内容とはなっていないことがある。		
						一応効果がある	2
						効果がない	1
総合評価 上記(必要性+効率性+有効性)の合計点数により評価。	継続・拡大(9~8点)	Ⓐ	センター職員の専門性を生かした講習会は、学校現場の要望とも合致しており、次年度以降も継続していく。	今後の取組方針	GIGAスクール構想の実現に伴う現場の要望をつぶさに捉え、今後も講習会の内容を充実させていく。特に、クラウドを活用した学習者端末の有効利用(即時共有、双方向性等)について積極的に提案をしていく。情報モラルに関しては、教職員対象とした研修会を中心とし、児童生徒への指導は各担当が実施できるようにする。また、警察署と連携し、各学校へ情報提供を行う。		
	見直・改善(7~5点)	Ⓑ					
	縮小・廃止(4~3点)	Ⓒ					



令和3年度 北村山広域行政事務組合教育委員会 事務事業点検・評価書

事務事業名	1 研究と研修活動の充実	事業名	職員の研修	所管課等・係名	北村山視聴覚教育センター	作成日	R4. 5. 31
-------	--------------	-----	-------	---------	--------------	-----	-----------

1 事業内容	事業実施主体	北村山視聴覚教育センター	事業箇所	事業実施場所及び北村山視聴覚教育センター	事業年度	開始年度		終了年度	
	対象	センター職員	内容	全国研修会等への参加 ・日本教育工学研究会全国大会および研修会 ※オンライン参加 ・全国視聴覚教育総会・理事会 ※オンライン参加 ・教育ITソリューションEXPO ※オンライン参加 (他、GIGAスクール構想や天文分野に関するオンライン研修会に多数参加)  参考図書を購入	事業費	31千円			
	目的	外部団体の研修に参加することで、職員の見識を高める。研修での学びを管内での研修内容に反映させ、管内におけるICT活用の底上げを図る。				補助率	国	県	その他
					0千円		0千円	0千円	
					地方債名	241千円			

2 事務事業評価(令和二年度事業)	評価項目	評価結果	理由・問題点など	前年度からの改善点  次年度への課題  今後の取組方針
	必要性 広域行政が行なうべきか。地域のニーズを反映しているか。	必要性高い ③	管内のICT教育の中核として、全国の先進的な研究や実践に関する研修を積むことができている。各種センター事業の折に、利用者に対して還元できる部分も多く、今後も積極的に全国規模の研修に参加をしていく必要がある。	
		一応必要性ある 2		
		必要性低い 1		
	効率性 投入された資源量に見合った効果が得られたか。	効率的である 3	センター職員が先進的な実践の研修を積むことで、管内に広くその成果を広げることができているものの、その主たる方法が文書による伝達となっているため、体験を伴うような実践的な形に変えるなどしていく必要がある。	
		どちらかといえば効率的 ②		
		効率的でない 1		
	有効性 目的に対して事業が有効か。事業実施により期待される効果が得られたか。	効果がある ③	新しく視聴覚教育センターに就いた職員が研修を積むことで、職員の育成に繋がっている。	
		一応効果がある 2		
		効果がない 1		
総合評価	継続・拡大(9～8点) ④	全国の先進的な取り組みを素早くキャッチするため、今度も継続して参加をしていく。ただし、参加する研修会が固定化しているため、他の研修会情報も積極的に収集していく必要がある。		
見直・改善(7～5点) B				
縮小・廃止(4～3点) C				

令和3年度 北村山広域行政事務組合教育委員会 事務事業点検・評価書

基本方針	2 映像教材の制作、保存活動の充実	事業名	映像教材制作事業(自作視聴覚教材制作)	所管課等・係名	北村山視聴覚教育センター	作成日	R4.5.31
------	-------------------	-----	---------------------	---------	--------------	-----	---------

1 事業内容	事業実施主体	北村山視聴覚教育センター	事業箇所	事業実施場所及び北村山視聴覚教育センター	事業年度	開始年度			終了年度		
	対象	地区内幼保施設職員、小・中・高等学校の教職員、社会教育関係団体、一般	内容	<p>自作視聴覚教材制作講習会(10名)                      視聴覚教材の制作に関する講演等を実施する。                      実施日：7/10                      講師：文教大学名誉教授 平沢 茂 氏</p> <p>北村山自作視聴覚教材コンクール                      北村山管内の小中高等学校および地域住民に広く公募し、自作視聴覚教材のコンクールを実施する。                      実施日：11/11 審査会、12/9 表彰式                      ・学校教育部門 1作品 ・社会教育部門 3作品                      ・児童生徒作品部門 2作品</p> <p>自作視聴覚教材の制作                      「桜に込めた想い～徳良湖築堤100周年～」社会教育専門部会制作</p>	事業費	66千円					
	目的	学校教育・社会教育の幅広い分野で、自作視聴覚教育教材の制作を積極的に奨励するとともに、その制作技術の向上に資するために開催する。			歳入(補助金等)	国	県	その他	0千円	0千円	0千円
			歳入(一般財源)	66千円							

2 事務事業評価 (令和二年度事業)	評価項目	評価結果	理由・問題点など	前年度からの改善点	自作視聴覚教材制作講習会をコンクールに向けた研修の場と位置付け、作成外部講師を招いた研修会を実施した。
	必要性	必要性高い ③ 一応必要性ある 2 必要性低い 1			
	効率性	効率的である 3 どちらかといえば効率的 ② 効率的でない 1		今後の取組方針	自作視聴覚教材制作講習会を実施し、映像制作の知識や制作技術の学びの場と位置づけ、出品作品の質の向上と出品数の増加を促す。また、専門部会との連携を密にし、地域に密着した教材制作を行う。
	有効性	効果がある 3 一応効果がある ② 効果がない 1			
	総合評価	継続・拡大(9～8点) A 見直・改善(7～5点) B 縮小・廃止(4～3点) C		自作視聴覚教材制作は、センター・ライブラリー機能の面で、センターが担うべき役割の1つである。また、教材制作活動が学校教育にも効果的に活用できるという点から、今後も事業を続けていくべきと考える。作品数が少ないので、今後は教育効果についてより詳しく説明するなどし、学校教育活動への活用を増やしていくべきである。	
		上記(必要性+効率性+有効性)の合計点数により評価。			

令和3年度 北村山広域行政事務組合教育委員会 事務事業点検・評価書

基本方針	2 映像教材の制作、保存活動の充実	事業名	映像教材の保存・アーカイブ化	所管課等・係名	北村山視聴覚教育センター	作成日	R4.5.31
------	-------------------	-----	----------------	---------	--------------	-----	---------

1 事業内容	事業実施主体	北村山視聴覚教育センター	事業箇所	北村山視聴覚教育センター	事業年度	開始年度			終了年度		
	対象	一般	内容	映像教材の保存・アーカイブ化 北村山地域の伝統文化、伝承行事等を映像作品として保存、伝承する事業。教材に適した映像素材であるかどうかを判断し、計画的に撮影および編集等を行う。各専門部会の活動にも制作活動を位置づけ、部会員と連携を図りながら制作する。 作品を収める媒体は、DVDおよび公式YouTubeチャンネルとする。  北村山視聴覚教育センター公式YouTubeチャンネル 公開動画:253本 チャンネル登録者数:347人 総視聴回数:81,622回 (R4.3.31現在)	事業費	1060千円					
	目的	古くから受け継がれてきた行事や伝統芸能などを映像として保存し、永く後世に伝えていく。			歳入(補助金等)	国	県	その他			
			0千円	0千円	0千円	歳入(一般財源)	1060千円				

17 2 事務事業評価(令和三年度事業)	評価項目	評価結果	理由・問題点など	前年度からの改善点	メルマガジンや、SNS等でアップロードされた動画についての紹介を行った。	
	必要性 広域行政が行なうべきか。地域のニーズを反映しているか。	必要性高い	③	古くから受け継がれてきた行事や伝統的な芸能、産業、自然などを撮影・保存することで、後世に受け継ぐことができる。これは、視聴覚教育センターとしての重要な役割であり、必要性は高い。	次年度への課題	北村山視聴覚教育センター公式YouTubeチャンネルの登録者数と視聴者数の増加。
		一応必要性ある	2			
		必要性低い	1			
	効率性 投入された資源量に見合った効果が得られたか。	効率的である	③	デジタル媒体をインターネット上に動画投稿する効率性は、DVD/パッケージを製作する労力より効率的である。制作物も品質をそのままに保存できることから動画投稿サイトの利用は有用である。		
		どちらかといえば効率的	2			
		効率的でない	1			
	有効性 目的に対して事業が有効か。事業実施により期待される効果が得られたか。	効果がある	③	インターネット上への動画投稿により多くの貴重な作品が視聴できるようになったことから、地区の伝統文化の価値を多くの人々に伝えるために大変有効であるといえる。	今後の取組方針	引き続き、メルマガやSNS、センターの事業説明や施設単位講習会、土曜日の一般公開の際など、折に触れて周知を行う。
		一応効果がある	2			
		効果がない	1			
総合評価 上記(必要性+効率性+有効性)の合計点数により評価。	継続・拡大(9~8点)	A	視聴覚教育施設としての役割を果たすため、今後も撮影・保存活動を継続していく。			
	見直・改善(7~5点)	B				
	縮小・廃止(4~3点)	C				

令和3年度 北村山広域行政事務組合教育委員会 事務事業点検・評価書

基本方針	2 映像教材の制作、保存活動の充実	事業名	16ミリフィルムの活用と保存	所管課等・係名	北村山視聴覚教育センター	作成日	R4. 5. 31
------	-------------------	-----	----------------	---------	--------------	-----	-----------

1 事業内容	事業実施主体	北村山視聴覚教育センター	事業箇所	事業実施場所及び北村山視聴覚教育センター	事業年度	開始年度			終了年度		
	対象	地区内幼保施設職員、小・中・高の教職員、社会教育関係団体、一般	内容	16ミリフィルムの活用 ・10月～11月を16ミリフィルム作品の特別上映月間とし、懐かしい映像作品の一般上映や映写機(16ミリ・8ミリ)等の特別展示を行う。  16ミリフィルムの保存 ・16ミリフィルム保有本数 約500本 ・館内のボイラー室を改修し、16mmフィルム保管用の棚を設置。	事業費	0千円					
	目的	16ミリフィルム作品を活用し、学校教育・生涯教育の振興を図る。映写機の操作方法を学び、幼児施設・学校・公民館・子供会・各種団体活動等で利用できるようにする。			歳入(補助金等)	国	県	その他	0千円		
			歳入(一般財源)	0千円							

18 2 事務事業評価(令和3年度事業)	評価項目	評価結果	理由・問題点など	前年度からの改善点	16ミリフィルムの良さや魅力を伝えるため、16ミリフィルム作品の上映月間を設け、映写機等の特別展示を行った。	
	必要性 広域行政が行なうべきか。地域のニーズを反映しているか。	必要性高い	③	視聴覚ライブラリーの機能の1つとして16ミリフィルムの貸出がある。教育映画としての歴史があり、文化財としての価値を大切にしながら、社会教育団体の利用を増やしていく必要がある。	次年度への課題	展示会の際、「バックヤードツアー」として映写室で映写機を操作している様子まで見ていただきたかったが、映写室が狭く、感染対策を行った上での実施が難しかった。
		一応必要性ある	2			
		必要性低い	1			
	効率性 投入された資源量に見合った効果が得られたか。	効率的である	3	現在製造されていない16ミリフィルムの良さを多くの方に提供していく役割を担う立場として、上映の場を提供していく必要がある。	今後の取組方針	上映期間中、16ミリフィルム映写機を利用者からから見える位置に設置し、機器の動作や職員の操作の様子を見て楽しんでもらえるようにする。
		どちらかといえば効率的	②			
	有効性 目的に対して事業が有効か。事業実施により期待される効果が得られたか。	効率的でない	1	社会全体として16ミリフィルムの活用場面が減少している中、その良さと映像技術の発展の歴史を後世に伝えるという点で、一定の効果があると考えられる。		
		効果がある	3			
		一応効果がある	②			
	総合評価 上記(必要性+効率性+有効性)の合計点数により評価。	効果がない	1	視聴覚ライブラリー機能の1つとして重要な分野であり、16ミリフィルムの良さを多くの方に提供していく役割を担う立場であると考えている。16ミリ映写機を活用した事業とも関連付けながら、参加者を増やしていきたい。		
継続・拡大(9～8点)		A				
見直・改善(7～5点)		B				
	縮小・廃止(4～3点)	C				

令和3年度 北村山広域行政事務組合教育委員会 事務事業点検・評価書

基本方針	3 一般公開の充実	事業名	天文関係事業	所管課等・係名	北村山視聴覚教育センター	作成日	R4. 5. 31
------	-----------	-----	--------	---------	--------------	-----	-----------

1 事業内容	事業実施主体	北村山視聴覚教育センター	事業箇所	北村山視聴覚教育センター	事業年度	開始年度			終了年度		
	対象	一般	内容	天文講演会(オンライン開催) 「はやぶさ2」プロジェクトについて、プロジェクトの内容やメンバーの思い、今後の活動予定などについて、オンラインで講演を実施。 講師:JAXAチーフエンジニア室 エンジニアリンググループ はやぶさ2プロジェクトチーム 武井悠人 氏  皆既月食観望会(ハイブリッド開催) YouTubeでライブ配信日本公開天文台協会との連携し配信。  会員制親子星空教室「スターウォッチングクラブ」 小学生を対象に参加者を募り、天文学習や観望会を実施。	事業費	126千円					
	目的	幅広い年代を対象に天文への興味関心を持ってもらうことや、天文教育を行う。			歳入(補助金等)	国	県	その他	0千円	55千円	0千円
			歳入(一般財源)	126千円							

19 2 事務事業評価(令和三年度事業)	評価項目	評価結果	理由・問題点など	前年度からの改善点	感染症対策として、オンラインを併用して講演会や学習を実施した。また、会員制親子星空教室は、金曜日と土曜日2コースに分けて開催した。	
	必要性 広域行政が行なうべきか。地域のニーズを反映しているか。	必要性高い	③			天文講演会とスターウォッチングクラブは、いずれもすぐに定員に達する盛況ぶりであり、天文愛好者の育成と天文教育の点で重要な事業となっている。北村山において唯一プラネタリウムを所持する施設である点からも、必要性は高い。
		一応必要性ある	2			
		必要性低い	1			
	効率性 投入された資源量に見合った効果が得られたか。	効率的である	3	インターネットを経由した申込やオンライン配信などにより、多くの参加者を取り込むことができた。その反面、配信にあたって多くの人手を割くことになり、非効率的な面もあった。	次年度への課題	全スタッフの技能の底上げを図り、少ない人数で効率よくオンライン配信の業務を行えるようにする必要がある。
		どちらかといえば効率的	②			
		効率的でない	1			
有効性 目的に対して事業が有効か。事業実施により期待される効果が得られたか。	効果がある	③	イベント参加者のアンケートの回答から、天文現象に対する興味関心が高まったとの回答が多く、期待される効果が得られたといえる。	今後の取組方針	今年度のオンライン配信で培ったノウハウを生かして、今後もオンラインを併用しながら、多くの方に気軽に参加してもらえるようにする。さらに、他事業も含めてスタッフ全員が何度も配信業務を経験することで、全体として技能向上を図っていく。	
	一応効果がある	2				
	効果がない	1				
総合評価 上記(必要性+効率性+有効性)の合計点数により評価。	継続・拡大(9~8点)	Ⓐ	天文教育、さらには職業教育の観点も踏まえ、上記の2つの事業を中心に、今後も内容の充実を図っていくべき事業である。			
見直・改善(7~5点)	B					
縮小・廃止(4~3点)	C					

令和3年度 北村山広域行政事務組合教育委員会 事務事業点検・評価書

基本方針	3 一般公開の充実	事業名	一般公開事業	所管課等・係名	北村山視聴覚教育センター	作成日	R4. 5. 31
------	-----------	-----	--------	---------	--------------	-----	-----------

1 事業内容	事業実施主体	北村山視聴覚教育センター	事業箇所	北村山視聴覚教育センター	事業年度	開始年度			終了年度		
	対象	一般	内容	<b>イベントプラネタリウム</b> プラネタリウムの新しい魅力を発信するため、音楽や朗読のコラボレーションや、睡眠をテーマにしたプラネタリウムを行う。  <b>土曜一般公開</b> ・映画上映とプラネタリウム投影（年間利用者数 令和3年 1,086人） ・機器材・教材の貸出や、教材制作等の利用（年間使用者数 令和3年 1,240人）  <b>【感染症対策機器】</b> ・サーマルカメラ 1台 ・空気清浄機 2台 ・アクリルパネル 等	事業費	657千円					
	目的	プラネタリウム室や視聴覚室などの設備と、貸出機材・教材について多くの方に知ってもらい、観望会等のイベントだけでなく、土曜日の利用者や、貸出、学習室の利用者など、年間合計の利用者の増加を図る。				歳入（補助金等）	国	県	その他		
				歳入（一般財源）	172千円						

2 事務事業評価（令和三年度事業）	評価項目	評価結果	理由・問題点など	前年度からの改善点	イベントプラネタリウムでは、新しく朗読とプラネタリウムのコラボレーション企画を実施した。土曜一般公開では、16ミリフィルム作品の上映月間を設けるなど、子どもだけでなく、大人も楽しめるプログラムを実施した。	
	必要性 広域行政が行なうべきか。地域のニーズを反映しているか。	必要性高い	③			イベントプラネタリウムは、いずれも申し込み開始から数日で満席に達するほど好評であり、多くの方に楽しみにいただいている。土曜一般公開についても、地域住民に気軽にセンターを訪れてもらう機会を設けることが、貸出や学習室利用、観望イベント等への参加者の増加につながるから、必要性は高いといえる。
		一応必要性ある	2			
		必要性低い	1			
	効率性 投入された資源量に見合った効果が得られたか。	効率的である	③	新型コロナウイルスの感染が拡大する中であったが、イベントプラネタリウムは回数を3回に分け、さらにライブ配信も行うことで、多くの方に楽しんでいただくことができた。土曜一般公開は、午前中のみに限定して開館することで、効率的に公開を行うことができた。	次年度への課題	コロナ禍においても多くの方々にセンターのイベントや一般公開に参加してもらえるよう、今後も感染症対策を踏まえた実施の方法・工夫について考えていく必要がある。
		どちらかといえば効率的	2			
効率的でない		1				
有効性 目的に対して事業が有効か。事業実施により期待される効果が得られたか。	効果がある	③	来所する方々が、イベントや一般公開をきっかけにセンター事業に興味を持ったり、機材・教材の貸し出しを利用したりすることも多い。地域住民のニーズに応え、さらに利用者の増加につながるという点で、有効性は高い。	今後の取組方針	イベントプラネタリウムについては、オンライン配信も行っていることをチラシやHP等で広く周知し、様々な形でイベントを楽しんでいただけるようにする。現在開催を見送っている「センターまつり」については、感染状況等を踏まえて内容や方法等を検討する。	
	一応効果がある	2				
	効果がない	1				
総合評価 上記(必要性+効率性+有効性)の合計点数により評価。	継続・拡大(9~8点)	A	地域住民にセンター事業を知ってもらい、利用者増加につなげるための必要な事業である。新型コロナウイルスの感染状況も考慮の上、今後も実施の方法を工夫しながら可能な範囲で実施していく。			
	見直・改善(7~5点)	B				
	縮小・廃止(4~3点)	C				

令和3年度 北村山広域行政事務組合教育委員会 事務事業点検・評価書

基本方針	3 一般公開の充実	事業名	機器材・教材購入及び貸出	所管課等・係名	北村山視聴覚教育センター	作成日	R4.5.31
------	-----------	-----	--------------	---------	--------------	-----	---------

1 事業内容	事業実施主体	北村山視聴覚教育センター	事業箇所	北村山視聴覚教育センター	事業年度	開始年度			終了年度		
	対象	研修用機器材・・・センター内に設置する機器材の整備。 貸出用機器材・・・学校教育関係機関、社会教育関係団体、その他教育長が認めた団体への貸出。 貸出用教材・・・上記団体に加え、管内に住所を有する個人への貸出。	内容	【研修用機器材】 ・有線マイク 2本（購入） ・タイピン型ワイヤレスマイクロホン 1台（購入） ・液晶テレビ 1台（購入） ・ブルーレイディスクレコーダー 1台（購入） ・講習用パソコン（東根市・村山市学習用端末）各1台（購入） ・プログラミング教育消耗品 一式（購入） ・指導者用デジタル教科書 中学校5教科（購入）	【貸出用教材】 ・体育科教材 1セット(10本) ・社会教育教材 1セット(2本) ・防災教育教材 1セット(1本)	事業費	4331千円				
	目的	小・中学校、社会教育団体等で利用する視聴覚機器材、教材を整備し、学校、団体等に提供する。 16ミリフィルム作品、DVD等の教材や、映写機、カメラ等の機器材の購入と貸し出しを行う。		【貸出状況】 ・16ミリ映画 52本 ・ビデオ・DVD 1,525本 ・機器材 1,077件	【貸出用機器材】 ・4Kビデオカメラ 1台（購入）		歳入（補助金等）	国	県	その他	4331千円
					0千円	0千円		0千円			

2 事務事業評価（令和三年度事業）	評価項目	評価結果	理由・問題点など	前年度からの改善点	貸出統計を吟味し、貸出の多い機材（ビデオカメラ）を購入した。中学校主要5教科の指導者用デジタル教科書を購入し、昨年度購入した小学校分と合わせて、小中主要教科のデジタル教科書を買そろえた。	
	必要性 広域行政が行なうべきか。地域のニーズを反映しているか。	必要性高い	③			現在、様々な事業において、マイクやプロジェクターなどの視聴覚機材は必要不可欠であり、これらの機材・教材の貸し出しに対するニーズは非常に高い。また、ICT教育の研修機会を提供するために、最新の機材を整備する必要がある。北村山地区内に同様の施設はなく、センターが担う役割は大きいと考える。
		一応必要性ある	2			
		必要性低い	1			
	効率性 投入された資源量に見合った効果が得られたか。	効率的である	③	研修用機器材は、移動学習等で効果的に活用した。貸出用機器材は、イベントの記録や自作視聴覚教材制作など、使用目的が想定通りの貸出が多かった。貸出用教材は、以前から要望があった教材や学校の研修にて活用する教材を整備した。いずれも、利用者のニーズに合わせた整備であり、効果が見られた。	次年度への課題	故障している機材の廃棄と新機種の機材の導入。研修用機器材のさらなる充実。指導者用デジタル教科書の有効活用。
		どちらかといえば効率的	2			
効率的でない		1				
有効性 目的に対して事業が有効か。事業実施により期待される効果が得られたか。	効果がある	3	研修用機器材は、移動学習等で有効に活用できた。一方で、貸出用機器材は、複数の機材が購入から年月が経ち、性能の面で最新機種から見劣りするようになってきた。高性能の機材の調査を行い、利用者が満足するような機器材を定期的に導入し、「最先端の視聴覚機材の提供」というセンターの役割を果たすべき。	今後の取組方針	貸出統計を吟味し、貸出の多い機材に重点をおいて整備を進める。最先端の視聴覚教材を活用した教育が体験できるよう機材・教材を整備する。指導者用デジタル教科書を研修等で積極的に活用したり、教科書展示会等で来所した方々に自由に体験してもらえようとする。	
	一応効果がある	②				
	効果がない	1				
総合評価 上記(必要性+効率性+有効性)の合計点数により評価。	継続・拡大(9～8点)	Ⓐ	研究と研修事業を充実させるために、今後も研修用機器材の充実を図る必要がある。貸出用機器材については、利用者のニーズに応じた、安価でより高性能な機器の提供を考えていく必要がある。教材購入については、学校での活用が見込める教材をそろえていく必要がある。			
見直・改善(7～5点)	Ⓑ					
縮小・廃止(4～3点)	Ⓒ					

令和3年度 北村山広域行政事務組合教育委員会 事務事業点検・評価書

基本方針	3 一般公開の充実	事業名	センター利用を促進するための広報活動	所管課等・係名	北村山視聴覚教育センター	作成日	R4.5.31
------	-----------	-----	--------------------	---------	--------------	-----	---------

1 事業内容	事業実施主体	北村山視聴覚教育センター	事業箇所	北村山視聴覚教育センター	事業年度	開始年度			終了年度		
	対象	地区内幼保施設、小・中・高校、社会教育関係団体、一般	内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チラシの配布先は幼児施設、小中学校、図書館、地域市民センター、公民館だけでなく、道の駅、観光物産協会など観光客が集まる場所にも配布する。</li> <li>・リピーター獲得のため、イベント参加者やセンター利用者にFacebook、LINE、メールマガジンの登録を促す。</li> <li>・DM希望者にはイベント案内のメール・はがきを送り、参加者の増加を図る。</li> <li>・こくちーずプロを使い、予約をインターネット上で受け付けるシステムにする。</li> <li>・チラシにQRコードをつけ、イベント紹介ページ等を簡単に見られるようにする。</li> </ul>	事業費	454千円					
	目的	地域住民の多くの方にセンター事業を知ってもらい、全ての事業の予約が定員に達するようにする。特にリピーターの獲得を増やす。				【チラシ】 ・土曜開館とイベント(6.7月、8・9月、10・11月、12・1月、2・3月、4・5月) ・天文講演会(12月) ・観望会(5月、9月)	歳入(補助金等)	国	県	その他	
		0千円	0千円	0千円							
				歳入(一般財源)	454千円						

2 事務事業評価(令和三年度事業)	評価項目	評価結果	理由・問題点など	前年度からの改善点	メール一斉送信システムを用いた広告(メールマガジン)を開始し、広報のデジタル化を進めた。
	必要性 広域行政が行なうべきか。地域のニーズを反映しているか。	点数	教育施設や公共施設等へのチラシ配布及びDMIによる情報発信の結果、受付開始からまもなく定員に達するイベントが増えた。情報を得ることでイベントに興味を持ち、参加したいと考える地域住民は多いと考えられ、広報の必要性は高い。		
		必要性高い ③			
		一応必要性ある 2			
	効率性 投入された資源量に見合った効果が得られたか。	効率性	チラシにホームページへ誘導するQRコードを掲載しており、インターネットで申し込む予約システムが確立され、予約受付を効率的に行えるようになった。		
		どちらかといえば効率的 2			
効率的でない 1					
有効性 目的に対して事業が有効か。事業実施により期待される効果が得られたか。	効果がある ③	教育施設に全員分のチラシを配布するイベントの参加者は良好であることから、チラシ配布には一定の効果がある。児童生徒だけでなく、地域の一般の方々への広報についてさらに工夫していく必要がある。			
	一応効果がある 2				
	効果がない 1				
総合評価	継続・拡大(9~8点) A	リピーターを獲得することで、参加者数の安定を図ることができると考えられる。チラシの送付だけでなく、メールやSNSでの広報を工夫していく。	次年度への課題	メールマガジン、SNSの登録者数をどうやって増やすか。SDGsや業務の効率化の観点から、はがき等の紙面での郵送は可能な限りなくしていく。	
見直・改善(7~5点) B					
縮小・廃止(4~3点) C					
				今後の取組方針	広報ついて、業務分担を行い時期を逃さないようにする。大きなイベントについては、実施要項を3か月前に完成させ、計画的にチラシを配布できるようにする。同時にプレスリリースも確実に行う。現在、紙面を郵送している利用者・施設に対して、R4年10月頃よりメルマガ等への移行を勧めいき、R5年度4月には概ねメルマガ等での配信に切り替える。(希望者にはその後も郵送を続ける)



令和3年度 北村山広域行政事務組合教育委員会 事務事業点検・評価書

基本方針	総務全般	事業名	視聴覚教育センター維持管理事業	所管課等・係名	広域 庶務係	作成日	R4.5.31
------	------	-----	-----------------	---------	--------	-----	---------

1 事業内容	事業実施主体	北村山広域行政事務組合	事業箇所	北村山視聴覚教育センター	事業年度	開始年度			終了年度		
	対象		内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・蛍光灯のLED化修繕工事（3か年計3,699千円）</li> <li>・ボイラー室改修工事（ボイラー撤去アスベスト封じ込め、更衣室設置）10,000千円</li> <li>・高圧ケーブル、高圧機器等交換修繕工事 10,000千円</li> <li>・外壁、屋上の改修工事 10,000千円</li> <li>・自動ドア交換 550千円</li> </ul> <今後検討が必要なもの> <ul style="list-style-type: none"> <li>・トイレ改修工事</li> </ul>	事業費	62,165千円					
	目的	設置から45年が経過し、施設が老朽化しているため、計画的に修繕を進める。				歳入（補助金等）	国	県	その他		
							0千円	0千円	0千円		
歳入（一般財源）	62,165千円										

2 事務事業評価（令和3年度事業）	評価項目	評価結果	理由・問題点など	次年度への課題	今後の取組方針
		点数			
市が行なうべきか。市民ニーズを反映しているか。	必要性	必要性高い	③	(ボイラー室改修工事)16ミリフィルムの保管場所が必要となっており、必要性がある。(LED化修繕)館内照明のLED化であり、必要性が高い。	施設の老朽化により突発的な修繕が発生し、実施計画書には無い修繕が発生する場合がある。必要性はあるが緊急性が少ない修繕等も計画に搭載し、予算の範囲内で修繕を前倒しするなど柔軟に対応できるようにしていかなければならない。
		一応必要性ある	2		
		必要性低い	1		
投入された資源量に見合った効果が得られるか。	効率性	効率的である	③	(ボイラー室改修工事)(LED化修繕)館内照明のLED化であり、省エネルギーに寄与する。	
		どちらかといえば効率的	2		
		効率的でない	1		
目的に対して事業が有効か。事業実施により期待される効果が得られたか。	有効性	効果がある	③	(ボイラー室改修工事)(LED化修繕)移動学習や会議室等で使用し、明るくなり学習しやすくなったと評価されている。	
		一応効果がある	2		
		効果がない	1		
上記(必要性+効率性+有効性)の合計点数により評価。	総合評価	継続・拡大(9~8点)	Ⓐ	概ね達成した。	今後、考えられる修繕も含め次年度の計画に搭載していく。
		見直・改善(7~5点)	Ⓑ		
		縮小・廃止(4~3点)	Ⓒ		

令和3年度 北村山広域行政事務組合教育委員会 事務事業点検・評価書

基本方針	総務全般	事業名	北村山教育会基金事業	所管 課等・係名	広域 庶務係	作成日	R4. 5. 31
------	------	-----	------------	-------------	--------	-----	-----------

1 事業 内容	事業 実施主体	北村山広域行政事務組合	事業箇所	北村山広域行政事務組合教育委員会	事業年度	開始年度			終了年度		
	対 象		内 容	基金名：北村山教育会基金 基金額：19,145,776円（R4.3現在） 事業内容：顕彰事業（北村山教育賞、北村山教育奨励賞）、北村山教育関係団体への助成事業  助成団体：北村山地区指導主事連絡協議会、北村山地区小・中学校長会協議会、北村山図書館協議会	事業費	6,483千円					
	目 的	財団法人北村山教育会の解散に伴う基金を基にした北村山の振興に係る経費。				歳入 (補助金等)	国	県	その他		
							0千円	0千円	0千円		
歳入 (一般財源)						6,483千円					

2 事務 事業 評価 (令和 3年 度 事 業)	評価項目	評価結果	理由・問題点など	次年度への 課題	今後の 取組方針
		点数			
必要性	市が行なうべきか。 市民ニーズを反映しているか。	必要性高い	③	北村山教育会基金を基に、顕彰事業や助成事業を行っている必要がある。	12月で表彰をおこなうとなると、秋の大会等での結果が翌年度になってしまう場合もあり、選考等の日程を検討していく必要がある。
		一応必要性ある	2		
		必要性低い	1		
効率性	投入された資源量に見合った 効果が得られるか。	効率的である	③	必要最低限で行っており効率的である。	
		どちらかといえば効率的	2		
		効率的でない	1		
有効性	目的に対して事業が有効か。 事業実施により期待される効果 が得られたか。	効果がある	③	教育賞、教育奨励賞の表彰を行うほか、教育関係3団体へ助成を行い、効果が有効である。	
		一応効果がある	2		
		効果がない	1		
総合評価	上記(必要性+効率性+有効性) の合計点数により評価。	継続・拡大(9~8点)	Ⓐ	概ね達成した。	
		見直・改善(7~5点)	Ⓑ		
		縮小・廃止(4~3点)	Ⓒ		